

畑地の区画整理とかんがい施設の整備を実施

「畑地帯総合整備事業」坂東中央地区(坂東市)は、平成27年度から本格的に畑の区画整理工事を開始しました。本年度は、13haの工事をを行い、約70haの畑の整備が完了しました。

今後は、畑地かんがい施設の整備を進め、「霞ヶ浦用水」を利用した効率的な営農が展開される予定です。



区画整理後のネギの作付状況

土地改良区施設の長寿命化対策

大規模な農業用の用排水機場が多く存在する利根川沿いでは、ポンプなど施設の老朽化が進んでいます。昭和40年代から60年代に整備した施設の長寿命化を図るため、「基幹水利施設ストックマネジメント事業」を活用し、ポンプ等の改修工事を6地区(受益面積 延べ約 5,900ha)で実施しています。



改修前後のポンプ状況(左:改修前, 右:改修後)

トピックス

ホームページにアクセス! 茨城 県西農林 検索

農産物の輸出促進

●下妻産梨 ベトナムへの輸出 100トン達成!
JA常総ひかりは、ベトナムへの梨輸出量が、目標とした100トンを超えたため、11月に「下妻市産梨輸出100トン達成記念式典」を開きました。

下妻産の梨は「大玉で甘く、みずみずしい」と現地での評価が高く、今後、一層の輸出拡大が期待されます。

●県西地域輸出米生産者協議会 アメリカに米を輸出!!
県西管内の24名の生産者は、円滑な輸出に向け、ほ場巡回や物流コスト低減のための試験輸出、現地調査などを実施しました。本年度は下妻市、坂東市等からアメリカに約200トンが輸出されました。協議会では、今後も安定的な米の輸出に取り組んでいく予定です。



下妻市産梨輸出100トン達成記念式典(H29.11)



アメリカでの米の試食販売(H29.11)

ICT活用に向け研修会を開催

県西地域の農業者を対象に、ICT(情報通信技術)を利用した営農管理システム等について研修会を開催しました。システムの開発にアドバイザーとして参画している農業経営士(八千代町)は、システムを利用した米の収量・品質の向上や経営管理に関する取り組みを中心に発表しました。

参加者はICT活用が有効であると認識し、導入への意識が高まりました。

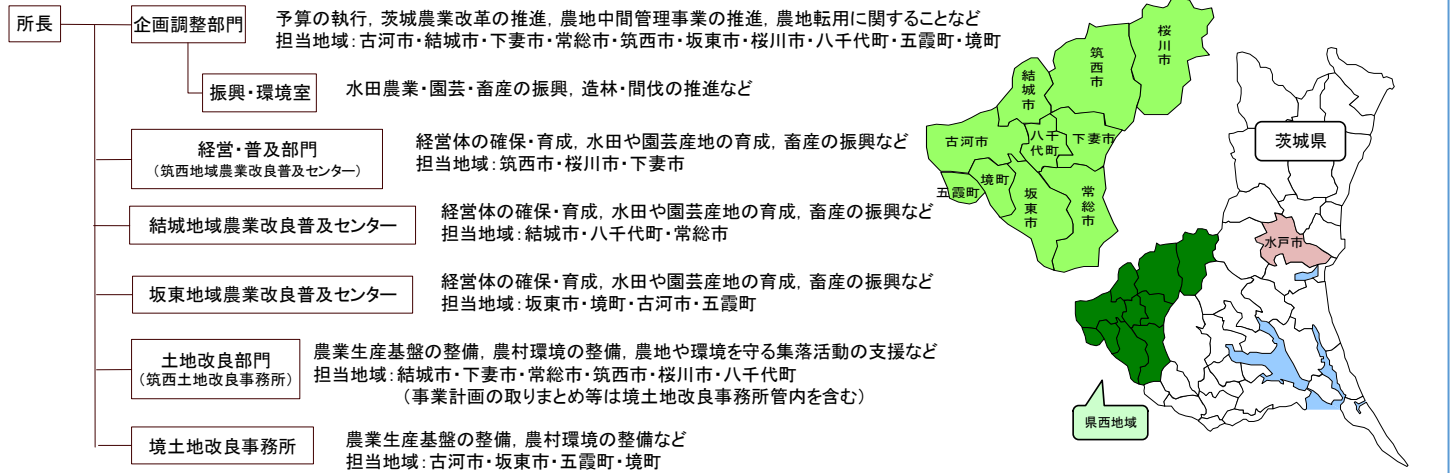
- (主な利用例)
- ・電子地図を活用した圃場管理(営農管理システム)
 - ・センサー付き収量コンバインによる効率的な仕分乾燥



ICT研修会(左:結城普及(H29.12), 右:坂東普及(H30.1))



県西農林事務所のご案内



平成29年度 茨城県県西農林事務所の取り組み

県西地域農林業振興基本計画に基づき、農業者・関係機関一体となって県西地域農業の成長産業化を進め、儲かる農業の実現を目指します

企画調整部門 筑西市二木成 615 筑西合同庁舎 5階 TEL:0296-24-9307

農地の集積・集約化を支援

「農地中間管理事業」により、本年度は約350haの農地が担い手に集積・集約化されました。

農地中間管理機構の設立以降、これまでに全市町18地区において担い手に対し集積を進めるモデル地区が設置されました。今後も地域農業の発展のため、農地の有効活用に向けた取組を市町、農業委員会、JA、土地改良区等関係機関が一体となって支援していきます。



地域の話し合いを支援

農業法人化推進の取り組み

法人化意向のある農業者を対象に、「いばらき農業アカデミー:法人化促進講座」を計4回開催しました。

研修後は、個別に専門家からアドバイスを受けられる「専門家派遣事業」の活用も進みました。

さらに、普及センターが開発した「法人化支援ナビ」等を活用した個別指導等により、10法人の設立にいたりしました。



法人化促進講座

振興・環境室

筑西合同庁舎 5階 TEL:0296-24-9166

銘柄産地の育成

「銘柄産地指定制度」は、高品質で信頼性・安全性が市場で高く評価された県を代表する青果物・花きの産地を指定する制度です。

県西地域では、銘柄産地18産地(青果物16、花き2)、銘柄推進産地12産地(青果物のみ)が指定されており、約150億円の販売額となっています。

本年度は、結城市の春トマトが、産地の努力により、銘柄産地として再指定されました。



城下町結城のいまだきトマト

加工業務用たまねぎ産地の育成

JA茨城むつみでは、生産者の安定収入や耕作放棄地対策を目的に、加工・業務用たまねぎの産地育成を進めています。本年度は「いばらきの園芸産地改革支援事業」を活用し、農業機械の導入や実証ほ設置支援を行いました。

初年度は19名が約6ヘクタールでたまねぎ栽培に取り組み、今後も生産者拡大が期待されます。



苗の移植風景(H29.12)

農産物ブランド化の推進

古河市のいがり、常総市のズッキーニのブランド化を推進するため、「いばらき食のアドバイザー」藤原浩氏を招き、生産者や関係機関を交え、活発な意見交換を行いました。

また、地元飲食店や消費者に調理方法を浸透させ、消費拡大を図るため、JA常総ひかり主催のズッキーニのレシピコンテストを支援しました。また、いがりについては県・古河市共催の飲食店向け調理講習会を開催しました。

今後は、産地と連携して販売促進活動を進めていきます。



ズッキーニレシピコンテスト(H29.7)



いがりの調理講習会(H29.10)

TPP対策による畜産施設の整備

TPP合意による畜産業への影響が懸念されるなか、養豚農家では、経営を維持するため生産コストの削減を迫られています。

下妻市の本橋ファーム(株)では、「畜産クラスター事業」を活用して豚舎などを整備し、規模拡大による生産コスト削減に取り組んでいます。

今後、出荷頭数の拡大、耕畜連携による地元産飼料用米利用拡大、新規就農希望者や研修生受け入れなど、地域に貢献できる経営体として発展されることが期待されます。



整備した豚舎(H29.11)



振興・環境室

イネ縞葉枯病防除対策の推進

県西地域においては、イネ縞葉枯病の発生が拡大しており、稲作経営への影響が懸念されています。

このため、市町、JA、関係団体で構成される「県西地域イネ縞葉枯病対策連絡協議会(平成29年10月)」や農業者向け研修会の開催、さらにチラシ・ホームページによって、市町・生産者等に対して情報を提供し、地域ぐるみの防除対策を進めています。



イネ縞葉枯病による穂の出すくみ症状(病虫害防除所提供)



県西地域イネ縞葉枯病対策研修会(H30.1)

森林・林業への理解促進活動

「森林湖沼環境税」を活用し、小学校や生涯学習団体を対象に森林が持つ様々な働きについての講話や県産材を使ったマイ箸づくり体験学習を行いました。生徒児童等延べ約2,300人(10市町39団体)の理解を深めることができました。

また、森林ボランティア等と協力し、地元小中学校の生徒児童・親子を招いた林業作業体験や自然観察などを実施するなど、森林・林業への理解促進を進めています。



森林の働きの講話とマイ箸づくり(古河市立西牛谷小学校)



親子で落葉掻き体験(NPO法人里山を守る会)

坂東地域農業改良普及センター

坂東市岩井 5205-3 TEL:0297-34-2134

新規就農者の受け入れ体制の充実

関係機関と連携して新規就農者の確保に力を入れています。「農業を志す人のための就農支援ガイドブック」を作成・配布するとともに、「産地担い手確保・育成応援事業」を活用して研修拠点を整備し、独立を目指す若者の研修受入を産地自らが始めました。

同事業を活用し、平成28年度末から2産地、本年度末から1産地でハウス等の研修拠点が整備され、就農を目指す若者の支援がスタートしています。



事業を活用し、研修生の受け入れを始めた山滝組合(坂東市)

6次産業化の推進

6次産業化に取り組む(取り組みたい)生産者を対象に、農産加工品づくりからブランド化・販路拡大まで、ニーズに合わせた幅広い支援を行っています。販路開拓のための「アグリフード EXPO」への出展や、加工品の評価把握のための消費者アンケートなどを支援し、生産者の意識の向上にも努めています。

その結果、古河市の生産者のにんじんドレッシングが「いばらきデザインセレクション」の知事選定を受けることができました。

今後とも生産者の希望を取り入れながら、農産加工品のレベルアップに努めていきます。



にんじんドレッシング

経営・普及部門 (筑西地域農業改良普及センター)

筑西合同庁舎 4階 TEL:0296-24-9206

ハウス環境測定データを活用したトマト安定生産技術の確立

県内有数の施設トマト産地である筑西市、桜川市において、トマトハウスへの環境測定装置、ICT(情報通信技術)の導入が始まっています。

この技術を活用することで、これまでは具体的に見えてこなかったハウス内の温度や湿度、日射量の生産環境を数値として見える化し、さらに、離れたところからでも測定データを確認することが可能となります。

また、環境測定データの解析を支援し、栽培管理の改善に取り組んでいます。



温湿度センサー

梨産地を支える担い手の確保・育成

これまで梨産地では、生産者の高齢化と樹園地の高樹齢化に対応して、早期成園化や省力化に繋がるジョイント仕立て栽培等の技術対策を進めてきました。

さらに、廃園が増える中、担い手の確保・育成について、喫緊の課題として産地自らが課題解決に取り組むよう研修会を開催し、他県の取組事例を学びました。

今後はモデル地区において、生産者の意向を確認しながら、具体的な取り組みを進めていきます。



梨担い手対策研修会(H29.12)

土地改良部門 (筑西土地改良事務所)

筑西合同庁舎 4階 TEL:0296-24-9241

水田の大区画化と担い手への農地集積を促進

筑西市の黒子地区では、平成19年度より、受益面積214haの区画整理事業を実施しています。本地区の50%以上を大区画の水田に整備し大型機械での作業効率の向上等が図られています。

また、「農地中間管理事業」を活用して担い手へ農地を集積・集約を進めています。担い手への農地集積率は工事着手前1割程度でしたが、本年度までに7割以上と大幅に集積が進んでいます。



整備された大区画水田での代掻き

農地・水路等の保全活動を支援

9市町の192組織において、「多面的機能支払交付金」を活用した地域の共同活動により、7,767haの農地及び農業用施設の保全管理が行われています。

森戸南部地域資源保全協議会(境町)では、地元小学生と連携したホタルの幼虫放流や鑑賞会、水田魚道設置による生態系への配慮などの取組みが評価され、「茨城県美しい水士里づくり優良活動表彰」において茨城県土地改良事業団体連合会長賞を受賞しました。



地域住民による草刈り



ホタルの鑑賞会

結城地域農業改良普及センター

結城郡八千代町若 1517-5 TEL:0296-48-0184

競争力のあるズッキーニ産地の育成

茨城県のズッキーニは東京都中央卸売市場の入荷量全国第3位を誇り、そのほとんどをJA常総ひかりズッキーニ部会が生産しています。

本年度は、近年、多発している微小病害虫防除方法の確立・指導や優良新品種の選定などを総合的に実施し、さらなる高品質化や安定生産に努めました。

産地、関係機関一丸となったこの取り組みは、市場評価を高めるとともに、ズッキーニの魅力を向上させ、生産者46名(対前年17名増)、面積22ha(対前年6ha増)まで産地が拡大しています。



ズッキーニの花と果実

診断施肥で露地野菜の安定生産

土壌の地力(可給態窒素)と残肥(硝酸態窒素)を簡易的に測定できる技術を活用した診断施肥により、過剰な施肥を抑えながら品質の向上につなげる取り組みが広がっています。

レタス栽培を中心とした結城地域では、レタスに加えてハクサイでも診断施肥技術を活用できるように現地実証圃を設置し、適正施肥マニュアルの作成を園芸研究所と連携して進めています。

$$\text{施肥窒素量} = \text{基準窒素量} - \text{土壌の地力} + \text{残肥}$$

栽培時期や品目に設定 (可給態窒素) (硝酸態窒素)

畑地帯総合整備事業の推進により霞ヶ浦用水の利用を拡大

「畑地帯総合整備事業」の事業化を結城市武井地区ほか4市町3地区で推進しています。用水機場やパイプライン、給水栓などのかんがい施設を整備することで、「霞ヶ浦用水」を利用した天候に左右されない計画的な営農が可能となります。

ネギのかん水効果実証ほ場では、無かん水区に対し、霞ヶ浦用水を利用したかん水区で約1.3倍の増収効果が実証されています。



畑地かんがいの様子



ネギのかん水効果実証現地研修会

下妻市大宝地区のほ場整備が完了しました

平成14年度より、147haの区画整理及び用水機場・パイプライン・排水路・農道の整備を行ってきた「経営体育成基盤整備事業」大宝地区(下妻市)が平成28年度末に完了し、5月には完成を祝う記念式典が行われました。

現在は、「大宝地区生産組合」を中心として用水機場を単位としたブロックローテーションに取り組むことで、湿害防止の効果を高め、麦・そばの高品質化に取り組んでいます。



完成記念式典(H29.5)